第１部　本市の子ども・子育て環境の現状

１　少子化の状況について

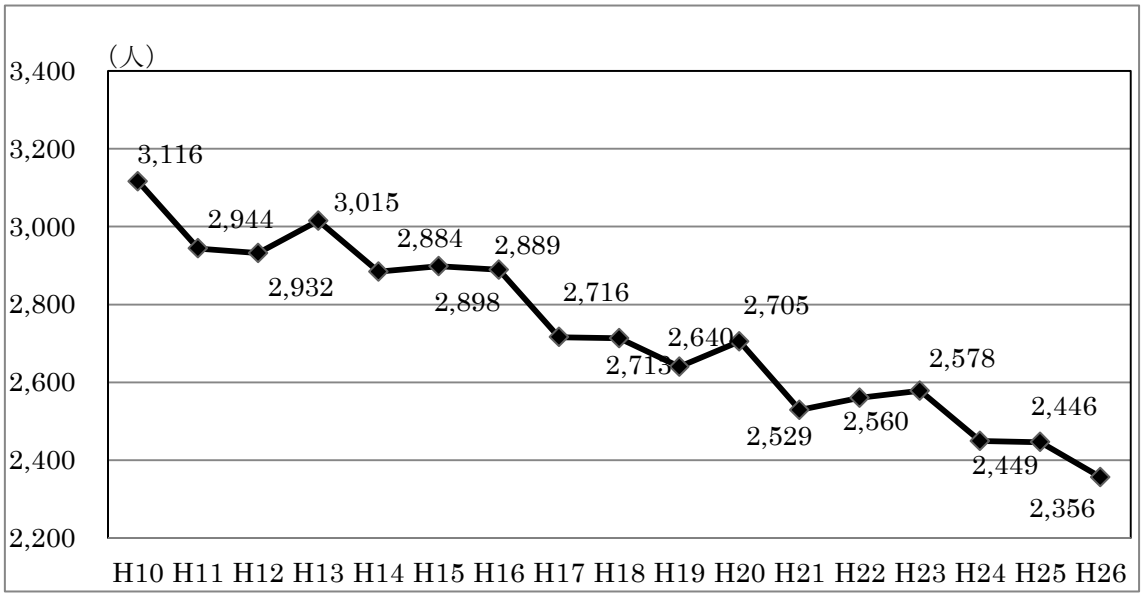
（１）出生の状況

本市の出生数は減少傾向にあり，平成１０年の３，１１６人から平成２６年の２，３５６人へと２４．４%減少しています。

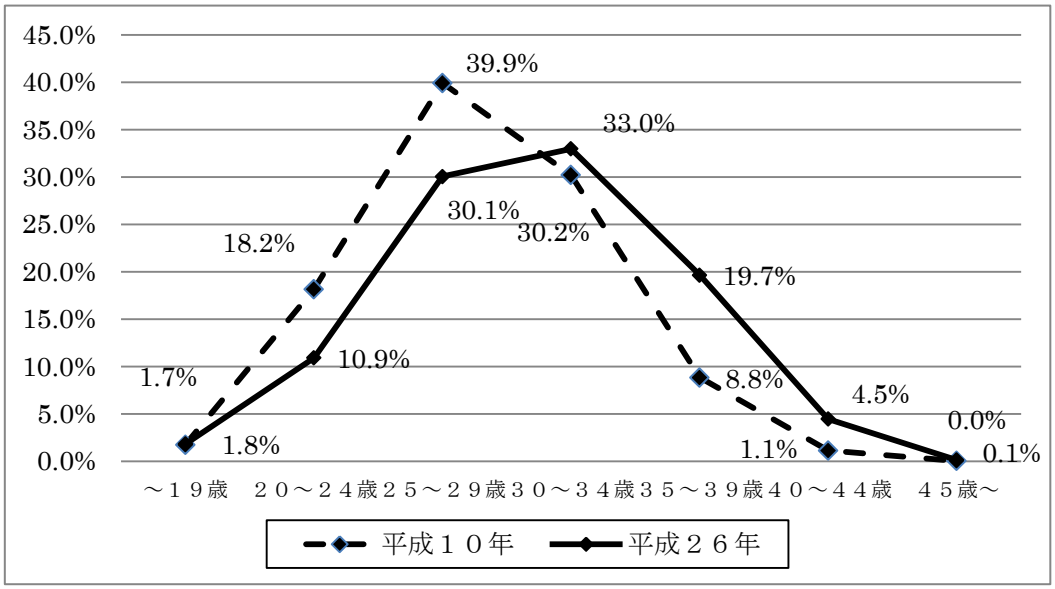
これを母親の年齢別にみると，出生数全体に占める２９歳以下の割合が平成１０年の５９．８%から，平成２６年の４２．８%へと減少しているように，出産年齢の高齢化が進んでいます。

また，本市の合計特殊出生率（１５～４９歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので，１人の女性が一生の間に産む子どもの数に相当）は，近年，下げ止まりの傾向にあり，平成２６年は１．２８となっていますが，長期的に人口が維持される人口置換水準（２．０７）を大きく下回っています。

旭川市：出生数の推移（旭川市保健衛生年報）



旭川市：母の年齢階級別出生数（構成比）の推移（旭川市保健衛生年報）



旭川市・北海道・全国　合計特殊出生率の推移（厚生労働省　人口動態統計）

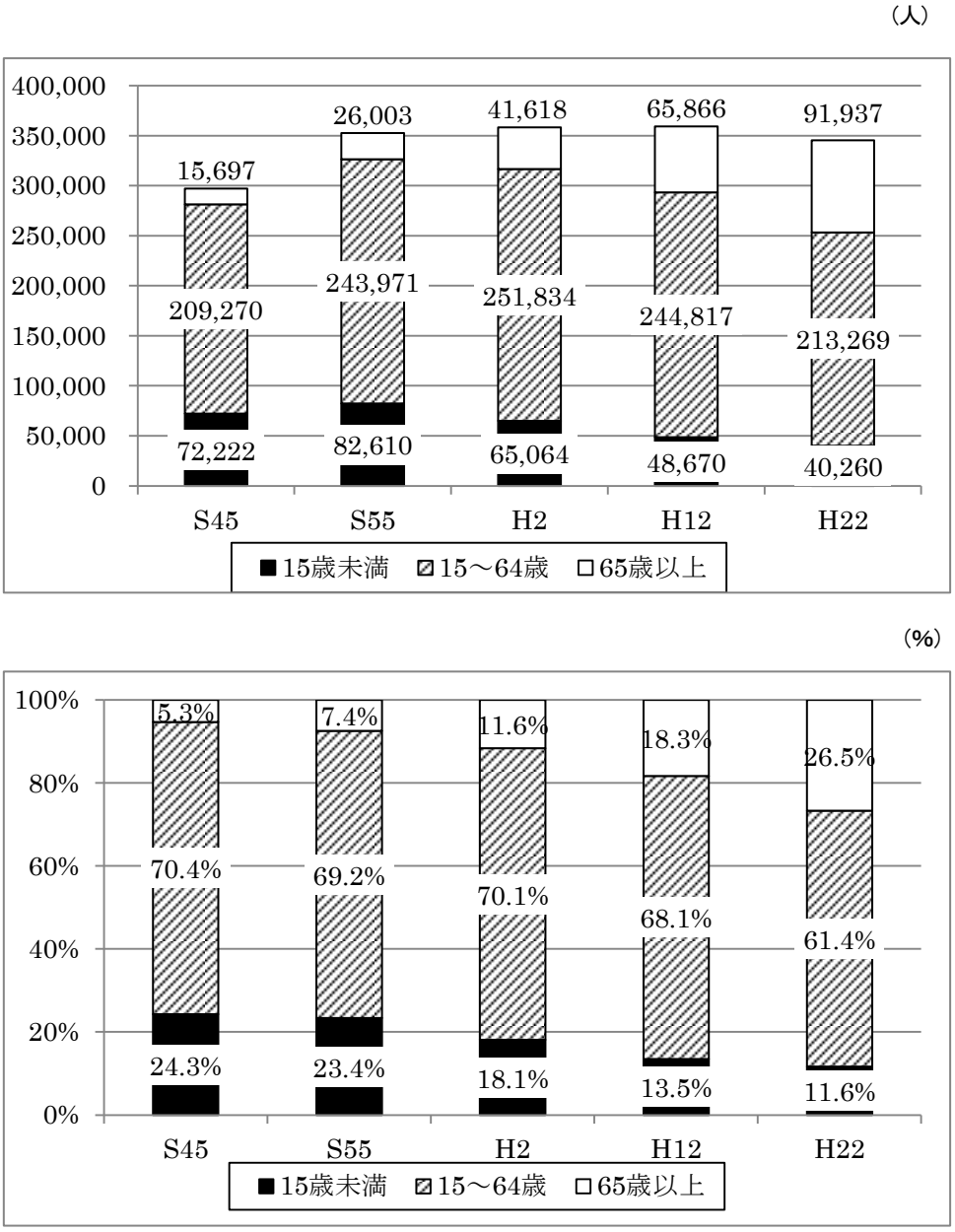
区　分	合計特殊出生率			出生率		
	旭川市	北海道	全国	旭川市	北海道	全国
平成２０年	1.24	1.20	1.37	7.7	7.4	8.7
平成２１年	1.20	1.19	1.37	7.3	7.3	8.5
平成２２年	1.24	1.26	1.39	7.4	7.3	8.5
平成２３年	1.28	1.25	1.39	7.5	7.2	8.3
平成２４年	1.24	1.26	1.41	7.3	7.1	8.2
平成２５年	1.28	1.28	1.43	7.2	7.1	8.2
平成２６年	1.28	1.27	1.42	7.0	6.9	8.0

（２）人口の推移

本市の人口は依然として減少傾向にあり，特に，１５歳未満の人口は昭和４５年の７２，２２２人から平成２２年の４０，２６０人へと４０年間で４４．３％減少しています。その一方，６５歳以上の人口は同期間において１５，６９７人から９１，９３７人へと約５．９倍に増加しています。

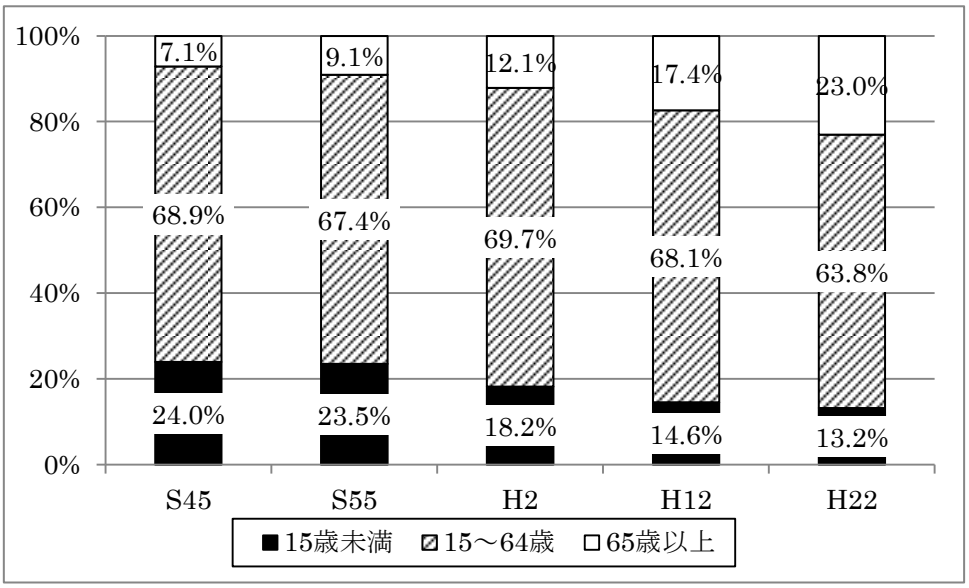
その結果，本市の人口に占める１５歳未満の人口及び６５歳以上の人口はそれぞれ，２４．３％から１１．６％へ，５．３％から２６．５％へと大きく変化しており，全国平均よりも少子高齢化の進行の度合いが進んでいる状況にあります。

旭川市：年齢（３区分）別人口及び構成比の推移（国勢調査）



全国：年齢（３区分）別人口構成比の推移（国勢調査）

（%）



（３）少子化の要因

少子化についての国による要因分析によれば，日本においては諸外国と比べて，結婚と出産が密接な関係にあることが特徴的とされています。

結婚については，未婚化及び晩婚化が進んでおり，それに伴い，第１子の平均出産年齢も高齢化が進んでいます。

また，夫婦の理想とする子どもの数は２人以上となっていますが，実際には，平均現存子ども数が２人未満となっており，希望と現実にギャップが生じています。なお，理想の子ども数を持てない最大の理由としては，妻の年齢に関わらず，子育ての費用が挙げられています。

少子化対策については，子育て支援施策の充実はもとより雇用環境の安定，男女共同参画の推進等，総合的な環境整備が必要となっています。

２　子育て家庭について

本市では，子ども・子育て支援に関する計画策定の基礎資料とするため，定期的に子育て中の保護者を対象としたアンケート調査（以下「ニーズ調査」という。）を実施しています。

これまでの調査結果をもとに，特徴的な内容を整理します。

（１）子育て中の保護者の不安感

ア　就学前児童を持つ保護者の状況

【子どもに関する悩み】

・　「子どもの教育に関すること」を選択した割合が最も高く，就学前児童を持つ保護者に対しても，就学後を見据えた教育に関する助言や情報提供が必要です。

・　「発達・発育に関すること」と「食事や栄養に関すること」を選択した割合は，小学校児童を持つ保護者と比べて高く，乳幼児健康診査や関連する相談業務等により，保護者の不安を和らげたり，子どもにとって望ましい支援につなげていく取組の充実が必要です。

【自分のことに関する悩み】

・　「子どもを叱り過ぎている気がする」と「子どもとの接し方に自信が持てない」を選択した割合が前回調査時と比べて増加しており，身近な場所で，気掛かりの段階で不安を軽減する取組が必要です。

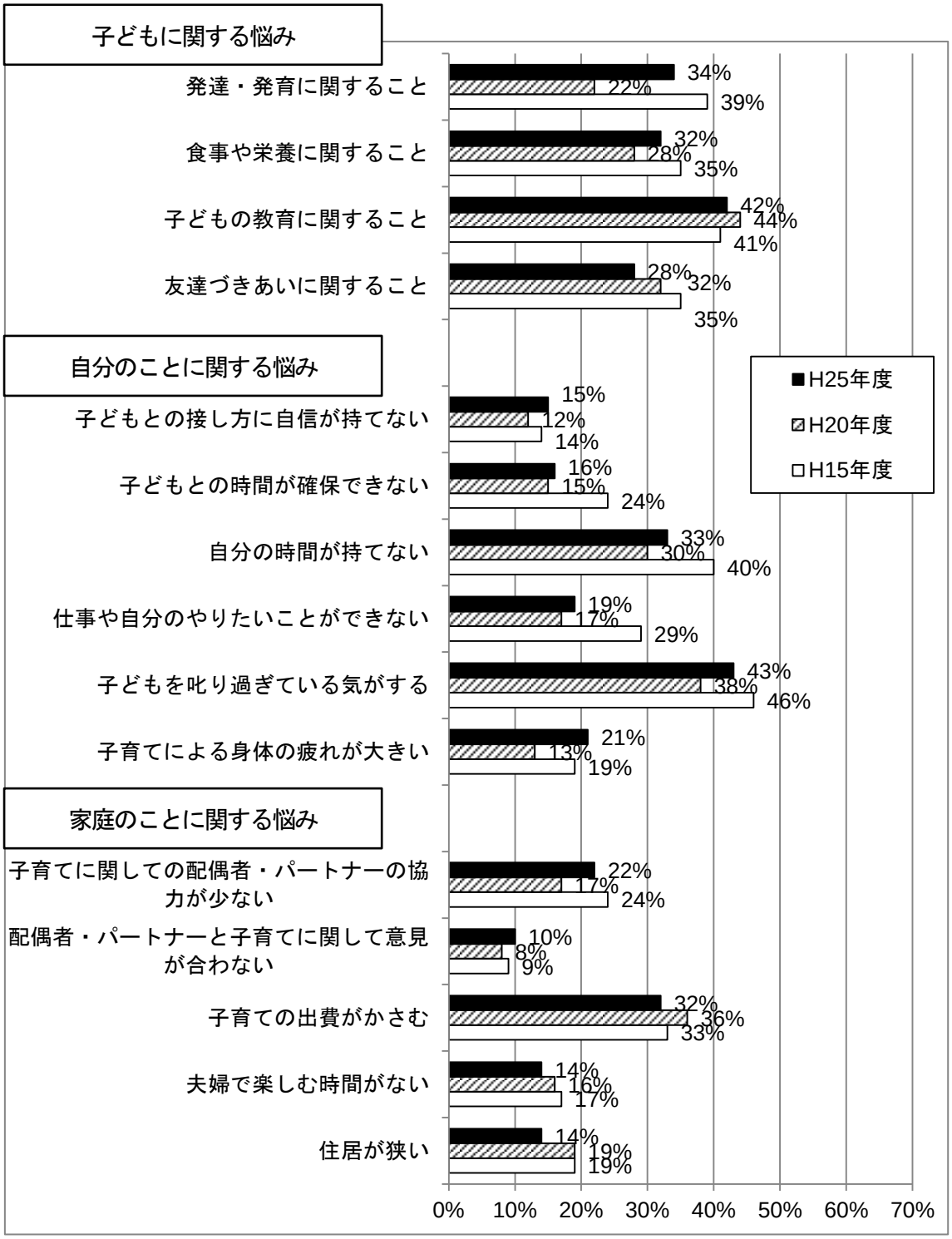
・　「自分の時間が持てない」や「子育てによる身体の疲れが大きい」を選択した割合が前回調査時と比べて増加しています。子育て支援部では，子どもを一時的に預かる事業を行っており，これらの事業等の周知も図っていきます。

【家庭のことに関する悩み】

・　これまでの調査時と同様，「子育ての出費がかさむ」を選択した割合が最も高くなっています。

・　また，国の調査分析によれば，２子目，３子目を出産する意識に影響するものとして，配偶者・パートナーの協力の有無が挙げられています。

ニーズ調査において，関連する項目を見ると，「配偶者・パートナーの協力が少ない」や「配偶者・パートナーと意見が合わない」を選択した割合が前回調査時と比べて増加しています。


子どもに関する悩み
発達・発育に関すること
34%
22%
39%
食事や栄養に関すること
32%
28%
35%
子どもの教育に関すること
42%
44%
41%
友達づきあいに関すること
28%
32%
35%
自分のことに関する悩み
子どもとの接し方に自信が持てない
15%
12%
14%
子どもとの時間が確保できない
16%
15%
24%
自分の時間が持てない
33%
30%
40%
仕事や自分のやりたいことができない
19%
17%
29%
子どもを叱り過ぎている気がする
43%
38%
46%
子育てによる身体の疲れが大きい
21%
13%
19%
家庭のことに関する悩み
子育てに関しての配偶者・パートナーの協力が少ない
22%
17%
24%
配偶者・パートナーと子育てに関して意見が合わない
10%
8%
9%
子育ての出費がかさむ
32%
36%
33%
夫婦で楽しむ時間がない
14%
16%
17%
住居が狭い
14%
19%
19%
H25年度
H20年度
H15年度
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%

イ　小学校児童を持つ保護者の状況

【子どもに関する悩み】

・　これまでの調査時と同様,「子どもの教育に関すること」と「友達づきあいに関すること」を選択した割合が高い状況にあります。これらの項目は，就学前児童を持つ保護者においても選択した割合が高く，関係部局が連携して，情報提供や相談体制の充実に取り組んでいくことが必要です。

【自分のことに関する悩み】

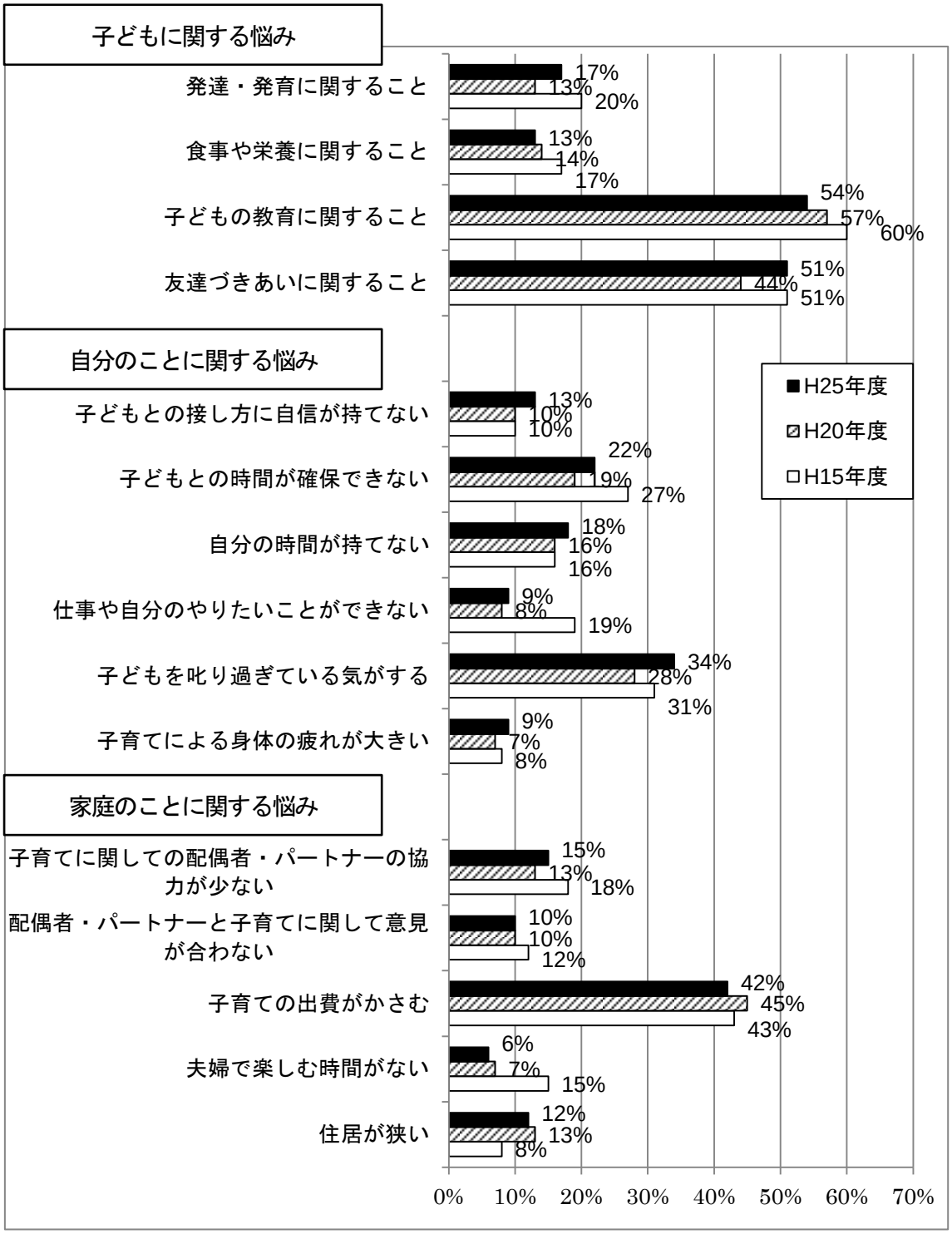
・　就学前児童を持つ保護者と同様,「子どもを叱り過ぎている気がする」と「子どもとの接し方に自信が持てない」を選択した割合が前回調査時と比べて増加しています。

　身近な地域で子育て中の保護者が気軽に訪れ，親子同士の交流や子育てに関する悩みや不安の相談をできる拠点の整備を進めていくことが必要です。

【家庭のことに関する悩み】

・　これまでの調査時と同様,「子育ての出費がかさむ」を選択した割合が最も高くなっています。

　子どもの医療費については，平成２８年８月から，中学生の外来分まで助成対象を拡大するなどの取組を行っており，今後も効果的な取組について検討していくことが必要です。

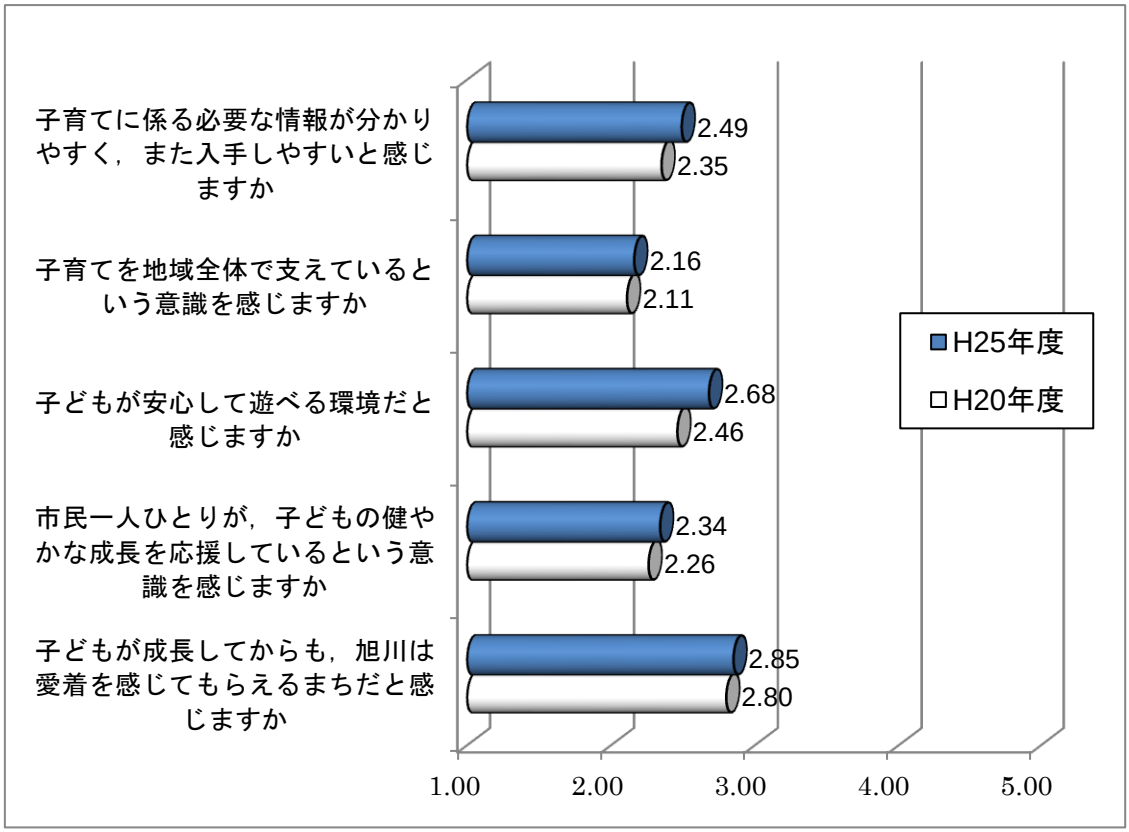

子どもに関する悩み
発達・発育に関すること
17%
13%
20%
食事や栄養に関すること
13%
14%
17%
子どもの教育に関すること
54%
57%
60%
友達づきあいに関すること
51%
44%
51%
自分のことに関する悩み
子どもとの接し方に自信が持てない
13%
10%
10%
子どもとの時間が確保できない
22%
19%
27%
自分の時間が持てない
18%
16%
16%
仕事や自分のやりたいことができない
9%
8%
19%
子どもを叱り過ぎている気がする
34%
28%
31%
子育てによる身体の疲れが大きい
9%
7%
8%
家庭のことに関する悩み
子育てに関しての配偶者・パートナーの協力が少ない
15%
13%
18%
配偶者・パートナーと子育てに関して意見が合わない
10%
10%
12%
子育ての出費がかさむ
42%
45%
43%
夫婦で楽しむ時間がない
6%
7%
15%
住居が狭い
12%
13%
8%
H25年度
H20年度
H15年度
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%

（２）子育て環境の満足度

ア　就学前児童を持つ保護者

各項目についての満足度を，１（低い）から５（高い）までで質問したところ，就学前児童を持つ保護者については，いずれの項目についても前回調査時と比べて満足度が高くなっています。

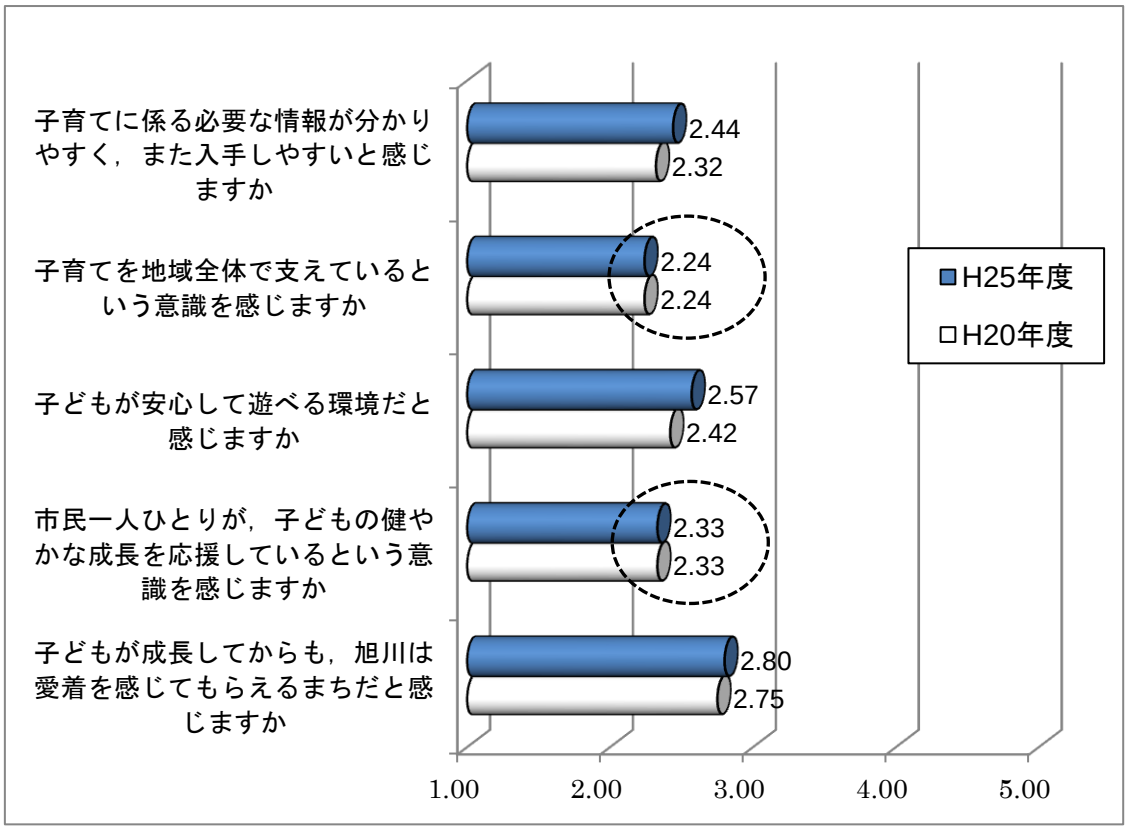
しかしながら，依然として，いずれの項目も中間点（３）以下の状況であり，特に，地域とのかかわりに関する項目については，満足度が低い状況にあります。



イ　小学校児童を持つ保護者

就学前児童を持つ保護者については，いずれの項目についても前回調査時と比べて満足度が高くなっていますが，小学校児童については，地域とのかかわりに関する項目について，前回調査時と同程度となっています。

なお，依然として，いずれの項目も中間点（３）以下の状況にあります。

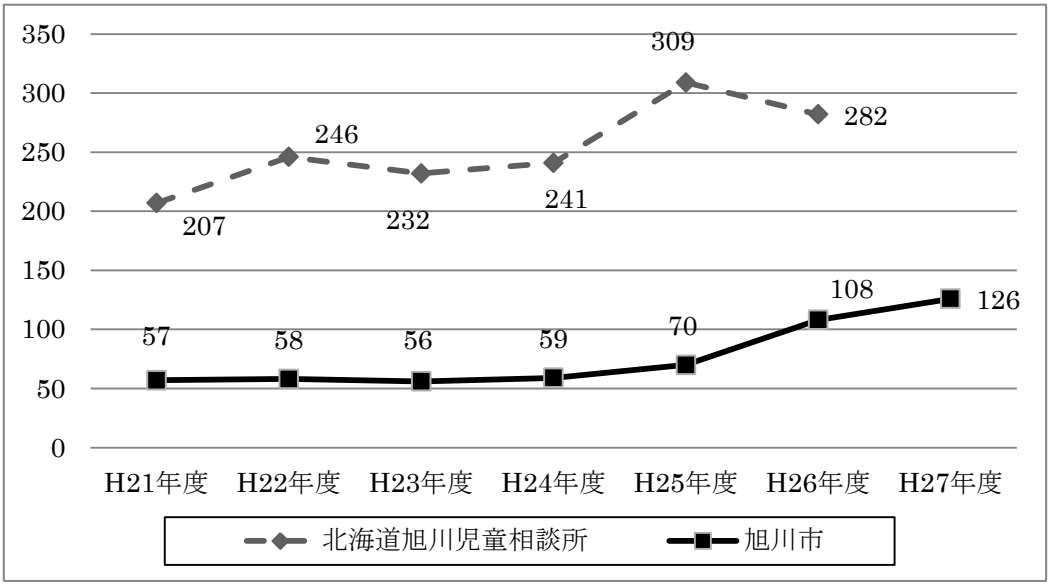


３　子どもの育ちについて

（１）児童虐待

全国と同様，本市においても児童虐待に関する相談対応件数が増加傾向にあり，旭川市家庭児童相談の状況を見ると，心理的虐待が年々増加しています。

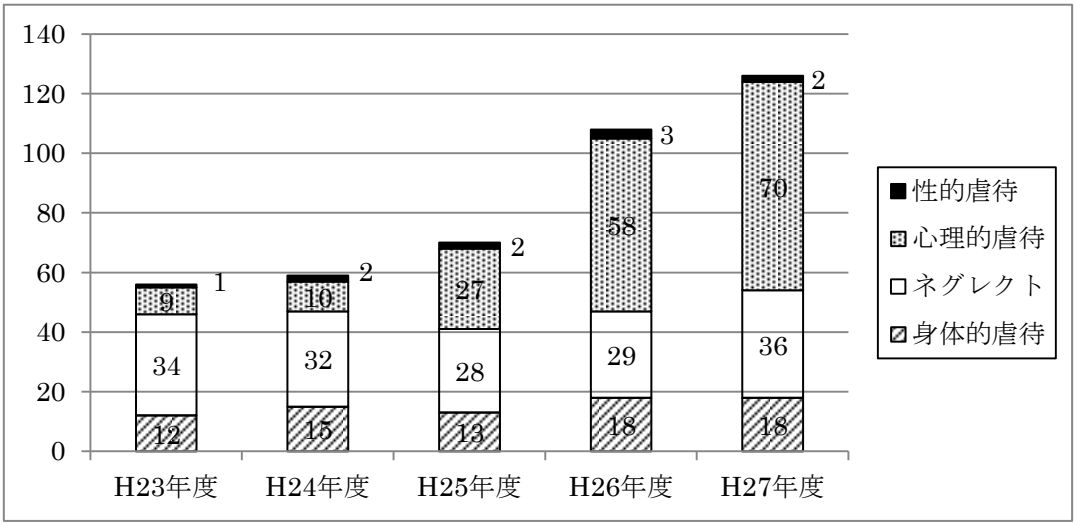
旭川市・北海道旭川児童相談所　児童虐待対応件数の推移（件）



※旭川市：家庭児童相談において受けた虐待に係る相談対応件数

※北海道旭川児童相談所：児童相談所において児童虐待又は児童虐待が危惧されるものとして対応した件数

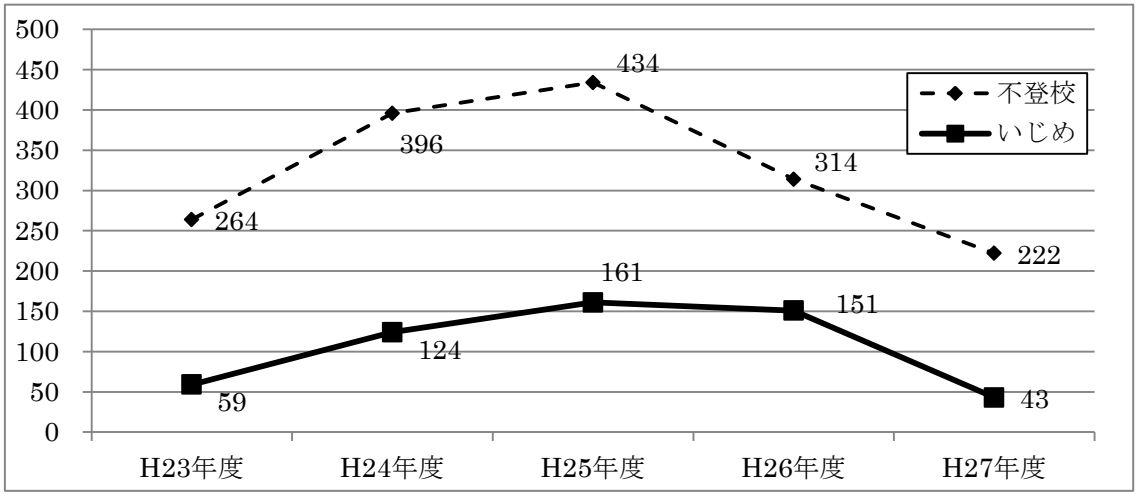
旭川市　家庭児童相談における種類別児童虐待件数（件）



（２）不登校及びいじめ

本市における不登校及びいじめの相談件数は平成２５年度をピークに減少傾向にあります。

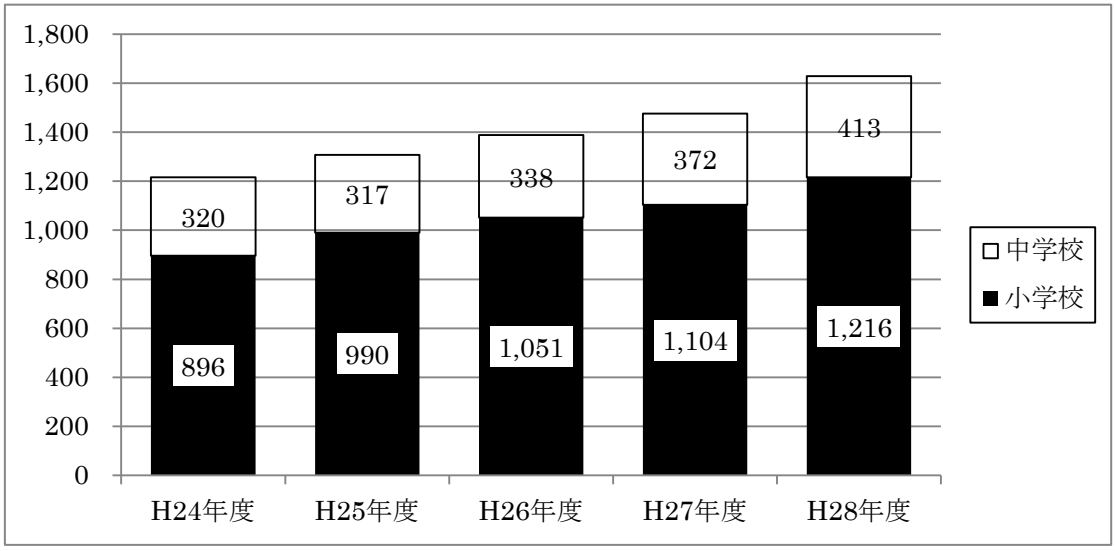
旭川市　不登校・いじめの相談延べ件数の推移（件）



（３）特別支援学級及び通級指導教室の状況

本市における特別支援学級及び通級指導教室の児童生徒数は，いずれも増加傾向にあり，特に，小学校においては，平成２４年度と平成２８年度を比較すると３２０人増加しています。

特別支援学級及び通級指導教室の児童生徒数の推移（人）

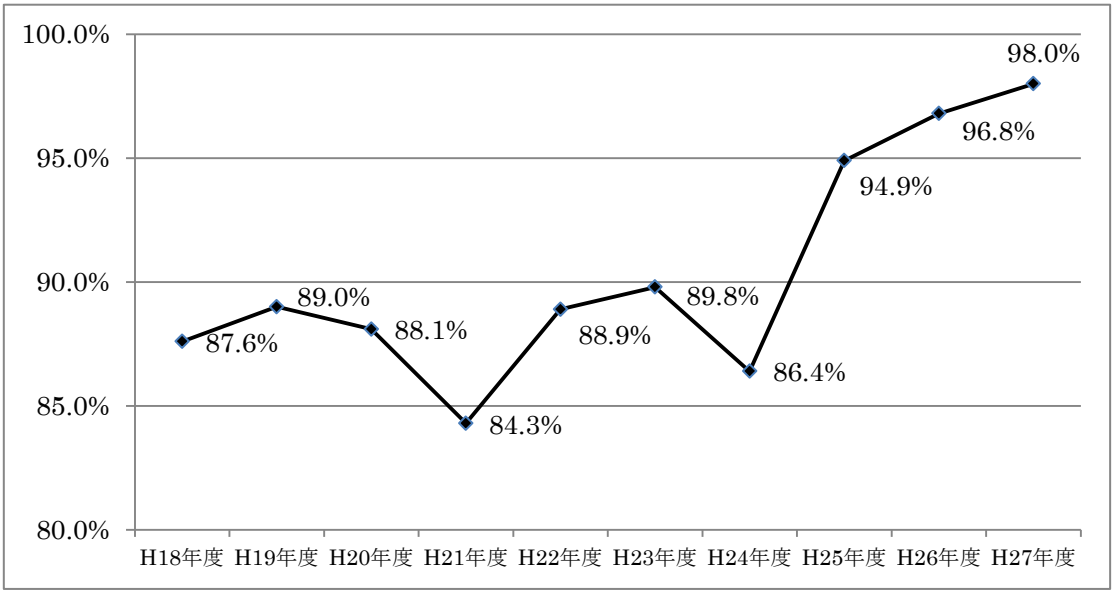


（旭川市　各年度５月１日現在）

（４）就職の状況

新規高校卒業者の就職内定率は上昇傾向にあり，平成２７年度は，９８．０％と高い状況になっていますが，北海道における新規就職者の３年以内の離職状況をみると，新規高卒，新規短大卒，新規大卒のいずれにおいても，離職率は全国平均よりも高い状況にあります。

新規高校卒業者の就職内定率の推移（%）



（旭川公共職業安定所　各年度３月末）

新規就職者の３年以内の離職状況（%）

		卒業時から平成２７年３月までの間における離職率		
卒業年次	区分	新規高卒就職者	新規短大卒就職者	新規大卒就職者
H24 年 3 月	北海道	48.2%	42.9%	37.2%
	全国	40.0%	41.5%	32.3%
H25 年 3 月	北海道	38.9%	31.3%	27.6%
	全国	31.8%	30.8%	22.8%
H26 年 3 月	北海道	24.1%	18.9%	16.5%
	全国	19.4%	18.1%	12.2%

（北海道労働局）